

森川美穂 アルバム近代史



森川美穂のファンの方々は、1985年VAPデビューから、東芝EMI時代(EASTWORLD～TM FACTORY)までのシングル、アルバムについてご存知の方がほとんどだと思います。

私(森川美穂 Recording Director 西嶋貴丸)は、2016年以降のCD制作を担当していますが、近年のアルバムについて、どのように制作されていったのか、その経緯と内容をレポートにしてみようと思います。

2016年から、ライブ、レコーディングを通して、スタッフとして関わっていますが、最近、森川美穂のファンの方から頂いたメールや、SNSや、ホームページへのコメントでも、森川美穂が歌手活動を継続していることを知らなかったという方がいらっしゃいました。

そこで、このようなレポートを書いて、森川美穂の近年にリリースした作品を紹介してみようと思い立ちました。

しかし、最初に浮かぶ皆様の疑問は「で、お前は誰?」・・・ということだと思います。そこで私が森川さんの制作スタッフになった経緯から、書き始めてみようと思います。
※アルバム内容については、5ページ以降のアルバム紹介からお読みください。

<私が、森川美穂スタッフになった経緯>

私と森川さんが知り合うきっかけは、森川美穂がデビューした1985年から話を始めないとなりません。

ご存知のように、森川美穂の所属プロダクションは、ヤマハ音楽振興会、そしてレコード会社は、VAPレコードから、1985年7月21日にデビューシングル「教室」がリリースされました。

日本でも新しいメディアとして、CDが登場していましたが、当時は、まだ45回転のシングルレコードやカセットがメインの時代でした。

ヤマハが初めて手がけるアイドルとして、日本テレビグループとタッグを組んだのが、森川美穂ということになります。VAPは、日本テレビ100%子会社の、レコード会社でした。

そして当時、私は日本テレビ音楽株式会社という会社で、音楽制作ディレクターをしていました。デビューシングル「教室」は、日本テレビ音楽の制作会議で音源を聴き、伸びやかで綺麗な声の女の子がデビューするのだなということと、少しノスタルジックな楽曲路線を狙ったんだなと感じたことを、覚えています。

その後、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、日本テレビの水曜日、夜10時からのドラマ「妻たちの課外授業」の主題歌「ブルーな嵐」が2ndシングルとなりましたが、この時の、番組主題歌制作担当が、私、西嶋でした。

あまり長くしたくないので、簡単にまとめますが、私としても、なぜ不倫ドラマの主題歌に、17歳のアイドルデビューした女の子が起用されたのか？あまりにアンバランスでびっくりしました。会議でこのドラマ主題歌の担当を命じられたのですが、制作部長に「本当ですか？これは、歌手にも、ドラマにもメリットはないのでは？」と会議で発言して、大いに怒られました。

「うるさい黙れ！お前の意見など聞いてない。お前は言われた業務をやればいいんだ。わかったか！」・・・と、これこそ、テレビドラマのようなセリフを言われ、はい、わかりましたと、業務を遂行することになりました。

そんなわけで、森川美穂の2ndシングル「ブルーな嵐」とそのカップリング曲「黄昏のLove Letter」のレコーディングを担当し制作したのが、森川さんと関わったきっかけとなります。その後、アルバム制作へも関わり、VAP時代の5th Album「Ow-witch!」までの制作を担当させてもらいました。

<23 years later>

私がディレクターとして森川さんのVAP時代のラストレコーディングは「チャンス」の歌入れでした。ということは、おそらく1989年の1月頃のことです。

あの日から、一度も、会話したこともなく、連絡をとったこともありませんでした。

私は、森川さんのレコーディングを最後に、会社を辞職し、転職しました。

レコーディングだけでなく、もっと幅広い業務をやってみたいと思い、会社を移り、KANのマネジメントの仕事を1989年の4月末頃からスタートさせました。ライブ、レコーディング、キャンペーン、プロモーションと、レコーディング以外は、初体験の連続でした。

森川さんはEMI移籍後「ブルーウォーター」がヒット曲となりました。

私もたまたま担当した、KAN「愛は勝つ」でヒット曲と巡り合い、その後、シャ乱Q「シングルベッド」とヒットを経験させてもらいました。その後、結局、得意なのがレコーディングだったので、レコーディングをメインとしながら、白井貴子、谷村有美、スターダストレビュー、杉田二郎、因幡晃、平山みき、と数多くの素晴らしいアーティストのレコーディングに関わらせていただきました。

そんな互いに、接点のない23年が経過しました。

そんなある日、Facebookからひょっこり森川美穂が現れました。

ちょうど、FBが上陸して、みんな興味本位にアカウントを作り始めていた頃のことです。

FBの記録を調べてみると「2011年7月からの友達」と書いてあります。

ということは、約23年ぶりということでしょうか。

このような森川さんとの電腦空間での再会があり、その後、大阪のうどん屋さんで楽しい昼食を共にしました。

私はこの年、2011年の秋から体調を崩し、入院し、そのまま2012年の春に会社を辞職しました。当時、妻が入院生活をしていて、病院に通いながら、仕事を平行してやるのには、無理があると感じていたのが、これはいい機会だと感じ、すっぱりと仕事をやめて、ゆっくり自分自身の体を休めながら、気兼ねなく妻の病院へ通うことにしました。仕事をしていると、どうも、サボっているようで、精神的に引け目を感じていたのが、身体も気分も楽になりました。

自分の時間はたっぷりあるので、森川さんのライブが東京である時には、見に行くようになっていました。

体調が少しずつ戻り、フリーでの活動を再開した頃、森川さんから連絡をいただき、互いのタイミングがあい森川美穂の制作スタッフとして参加して現在に至ります。

駆け足ですが、こんな経緯です。

さて、ここからがアルバム近代史となります。





【2016/11/30 Release】

Album「Life is Beautiful」 (5曲収録)

- | | | | |
|-----------------------|----------|----------|---------|
| 01. My Dear | 作詞:森川美穂 | 作曲:中崎英也 | 編曲:小林信吾 |
| 02. Slow Love | 作詞:山田ひろし | 作曲:内藤慎也 | 編曲:小林信吾 |
| 03. Saison de l'amour | 作詞:佐藤純子 | 作曲:吉田みさお | 編曲:塩入俊哉 |
| 04. Domino | 作詞:山田ひろし | 作曲:内藤慎也 | 編曲:塩入俊哉 |
| 05. Life is beautiful | 作詞:佐藤純子 | 作曲:土井淳 | 編曲:塩入俊哉 |

このアルバムがどうやって作られていったのかについては、また、少し遠回りした話から始めないとなりません。

2015年の暮れに、赤坂のライブハウス「ノヴェンバー・イレブンス」で、カバー曲を中心としたライブをやるという連絡をいただき、それでは、昔の仲間たちを連れて、一緒に見にいこうということになりました。

同行メンバーは、アレンジャーの小林信吾さん、作曲家の中崎英也さん、そして私の3名です。VAP時代にこの二人を巻き込んで森川美穂の制作プロジェクトに引き摺り込んだのが、当時の制作担当ディレクターの私、西嶋でした。

私は、この日までに数度、渋谷のプレジャープレジャーのライブを見ましたが、小さなライブハウスで、ピアノの伴奏だけで歌う森川美穂を聴くのは初めての体験でした。

デビューから30年経過し、この時は、プロダクションもスタッフもなく、一人でライブをセッティングしていました。このライブから歌への情熱をはっきりと感じ取ることができました。

話はさらに遠回りします。

今でも鮮明に覚えています。23年ぶりの再会の昼食は、2011年の夏、大阪のうどん屋さんでしたが、席に着くなり、足を組み、テーブルに片肘をつき、ツンと顎を上げ、手の甲で支えながら、私の目を覗き込むようにして、、、

「あのさー、西嶋さん。私、歌が上手になりたいんだけど、どうすればいい？」

23年ぶりの森川美穂との会話の第一声が、このフレーズでした。

びっくりした。

いきなりピンタを喰らったような衝撃でした。

これが森川美穂という人そのものなのだと、はっきりと心に焼きつきました。

そもそも、私は、森川美穂という人物を何も知りませんでした。

しかし、あの瞬間に全てを理解することができました。

話を戻します。

赤坂のライブが終わった後に、私たち3名は食事をしていました。

そこに、森川さんが合流しました。

私たちが森川美穂のレコーディングをしていた頃は、森川さんは17歳～20歳です。スタジオで会うことがあっても、会話することはほとんどありませんでした。私も、歌入れの時に、トークバックというマイクを通して、レコーディング作業上の業務的な会話だけで、あとは「おはよう」「お疲れさま」という挨拶程度でした。

しかし、30年も経てば、10歳程度の年の差は、誤差みたいなもので、全員が百戦錬磨のプロたちとなっていました。時間というのは、伸びたり縮んだりする、面白いものだと思います。

この時、森川さんは一度も歌手活動を止めずに、歌い続けてきたことを知りました。

子育てもあり、活発には活動できなくても、年に1度は、渋谷プレジャープレジャーで、コンサートが続いていたようです。大したものだと思います。

西嶋「CD作れば？ どうせ、みんな協力してくれるよ。でしょ？」

中崎「いいよ」

小林「じゃ、アレンジするよ。西嶋、仕切れよな」

西嶋「はい、わかりました」

こんな感じで、昔話やら、あてにならない業界あるあるな、とても楽しいひと時を、赤坂の焼き鳥屋さんで過ごしましたが、私は、この言葉をスルーするつもりはありませんでした。

このテーブルの4人は、すでに、約束を交わしたと認識していました。

この年(2015年)の年末、森川さんから電話がきました。

来年(2016年)は、息子さんが、16歳になる年だということです。

「それが、どうしたの？」・・・と、私はあまり意味が理解できませんでした。

説明を聞いているうちに、面白くなってきました。

私の知らない、森川美穂のデビュー前の歴史を、その説明から知ることができました。このストーリーは、ものすごく面白いのですが、回り道どころが、もう本編に戻れなくなるので、必要事項だけ述べることにします。

●16歳になる年=森川美穂はヤマハと契約。中学卒業後、上京し一人暮らしを始め、プロとしての一步を踏み出した年齢である。

●息子が16歳になる=一人前になる年齢。故に、2016年からは、森川自身の音楽活動を、活発化していきたい。

●活動基盤を作り、具体的に動き出したい。

要約すると、このような話でした。

CDの制作は、すでに赤坂の焼き鳥屋さんで大きな流れは出来ていたもので、私が担当して作ればいいだけだと思っていました。さて、森川美穂の音楽活動の活発化というのは、何を指すのかと考えた時、この時代、CDはもうあまり売れないわけで、リリースが空いていることや、ファンクラブがないということも含めて考えると、まずはライブ活動を活発化させることです。これを一人でやるのは難しいので、マネジメントが必要ということになります。

私も懇意にしているライブ、イベント会社であるキャピタルヴィレッジは、もともと森川美穂の渋谷プレジャープレジャーでのコンサートのイベンター業務をやっている会社でした。そこで、キャピタルヴィレッジの荒木社長と打ち合わせをした方がいいと考え、森川さんに東京に来てもらい、両者をセッティングしました。

確か、翌日から大学が始まる日でしたから、2016年正月明け1月4日のことだったと思います。私自身は、CDの制作担当はやるつもりでしたが、マネジメントは大変なことを十分に知っているのです。そこはキャピタルヴィレッジにお願いをして、そのフォローに回るという計画で、両者を引き合わせました。

キャピタルヴィレッジは、森川美穂のことはコンサートを通して業務的に関わっていたこともあり、両者は知っている間柄でした。荒木社長としては、森川美穂がいい歌手であるということは理解しているし、協力してくれるスタンスがあり、このミーティングとなりました。

話し合いは順調に、計画通りに進行し、しめしめ、これはいい感じだと思っていましたところ、荒木社長から、とても冷静な意見が述べられました。

マネジメントを手伝うことは、気持ちとしては問題はないけど、実際のところどうなんだろう？・・・ということ話し始めました。

実際のマネジメントとなると、細かい打ち合わせが頻繁に必要になります。マネジメントは現実的な判断を、具体的に下していくポジションです。この為、かなり踏み込んだコミュニケーションが必要になります。新たな担当者との関係構築、コミュニケーションが潤滑に回り始めるためには、密接な連絡、打ち合わせが頻繁に必要になります。

森川さんは大阪在住で、普段は大阪芸大の仕事(当時は准教授/現在は教授)としての仕事が忙しく、東京のキャピタルヴィレッジの担当といっても、他の仕事も大量に抱えた中で、森川さんとのリレーションを行なっていくことになる。

その重要な打ち合わせを、直接会うことなく電話だけでスムーズに進めることが果たして可能なのか？そんなに簡単に信頼関係を構築できるだろうか？・・・という問題提起が荒木社長からあったのです。

そこで、荒木社長から、続けて提案があったのは・・・

西嶋さんがやればいいんじゃないの？

そうしたら、森川さんと信頼関係がすでにあるわけでしょう？ 西嶋さんがマネジメントをやれば、うちとも信頼関係があるわけだから、キャピタルヴィレッジが西嶋さんのプログラムをバックアップしていくということは、一番、スムーズなんじゃないかな？

あらら、、、、なんか、風向きが変わったぞ。想定外の方向に話が進み始めているぞ、、、、と思いつつも、荒木社長のおっしゃる話は、筋がピシッとど真ん中を通った話で、説得力がありました。明日から大学が始まるという日に、日帰り、東京に呼んだのは私です。無駄骨の東京日帰り話にさせるわけにはいきません。

そうですね。じゃ、やってみようかな。

心では、これは大きな責任を背負ってしまったと思いながらも、平然とした顔で答えました。こうして、弊社、レゾセンスがマネジメントをしながら、CD、ライブとトータルで森川美穂チームを運営していくことになりました。

スタートの時期の流れのため、長くなりましたが、こうしてチーム森川が形成されていくことになりました。

2016年1月4日のこの打ち合わせから、物事が動き始めました。

森川さんは打ち合わせ後、大阪へ戻っていきました。

私は、そのままキャピタルヴィレッジへ残り、ライブの計画を練り、4月のブルースアレイ公演を決め、11月の渋谷プレジャープレジャーでのアルバムリリースライブの計画を立てました。

こうして、11月リリースのアルバム「Life is Beautiful」へのレコーディングへと走り始めました。

<アルバム企画>

やっと、ここからアルバム制作についての話となります。

私の中の方針はシンプルです。

森川美穂がやりたいことを手伝う。

森川さんが歌いたい曲を制作し、歌ってもらい、CDにする。

以上です。

「どんな歌を歌いたいの？」

・・・という話からスタートしました。

もちろん、このきっかけである赤坂焼き鳥屋チーム、小林信吾、中崎英也という才能を使わせてもらいながら、デビューから90年代を駆け抜けた頃のイメージを彷彿とさせる作品を作るのもいいと思いました。

2015年に30周年記念として作られた新曲バラード「Life is beautiful」は、2015年の30周年記念コンサートと、赤坂「ノヴェンバー・イレブンス」では歌われていましたが、まだレコーディングはされていませんでした。この曲を中心にCDを作ろうと考えていました。

このような目標をたて、あとはスタートし走りながら調整していくことにしました。

「My Dear」

中崎さんは、いつも一発で決めてくれます。
森川ポップスの匂いを残しながら、10代～20代の頃では歌えない、もうワンランク上の歌唱を必要とするポップなメロディーを投げ込んできました。

さて、作詞はどうでしょうか？
森川さんは、もう私は作詞をしませんと言い切っていました。
しかし、この作品は、2015年11月の赤坂の焼き鳥屋での約束、指切りげんまん作品です。

中崎英也さんはアレンジも素晴らしい人です。デモテープでは、アレンジも完成されていました。
しかし、赤坂ミーティングでは、中崎さんが作曲して、信吾さんがアレンジをするという約束です。そしてあの約束の日、私が森川さんへ言った言葉がありました。

「それなら、作詞は美穂が責任をとらないとね」

私は、この会話の流れを覚えていました。
そこで、作詞は森川美穂本人に責任をとってもらうことにしました。

歌入れ2日前まで歌詞が上がらず、これが遅ければ、リリースが出来ないというくらい、ギリギリの進行でした。しかし、私は、気にしませんでした。
あれだけ作詞もしてきた森川美穂が、歌詞が作れませんなんて、そんな寝ぼけた話はありません。彼女のためのプロジェクトです。出来なければ、リリースを遅らせるだけです。

なーんて、カッコいいことを今だから書けますが、正直、ヒヤヒヤしながら待っていました。
何度も書き直したようですが、結局、森川さんは、息子さんのことを題材にして、歌詞を作り上げました。

このアルバムが生まれるきっかけは、息子さんが16歳になる2016年から音楽活動にアクセルを踏むということでした。こう考えてみると、私には全てのストーリーが実に美しく感じました。

森川美穂にとって、とても意味のある1曲が仕上がりました。
こうして、アルバム1曲目に収録し、ここから2016年のNew Albumがスタートするという思いを込めました。

「Slow Love」

森川さんに、他にはどんな作品を歌いたいのかと質問した時に、即座に返ってきた答が「Domino」「99 Generation」みたいなラテン系を歌いたいということでした。

CD制作に具体的に入る前までは「歌謡曲歌いたい、歌謡曲歌いたい、、、」って連呼していたので、あれ？って思いました。

話を具体的にスタートする前は、しっとりとした、ピアノ+αで歌うアルバムになるとなんとなく予想していたからです。でもいいや、森川美穂が、今、歌いたい世界を歌うことがスタートです。「ドミノ、99ですね？ はいわかりました」・・・という訳で、では、その時の作家に頼むのが、一番、わかりやすいし、確実ですね。こうして、作詞：山田ひろし 作曲：内藤慎也 という両氏に作品依頼をしました。

もうみんなプロばかりなので、私は、森川さんがこう言っていますと伝えて、あとは、出来上がってくるのを待つだけでした。そして、この曲も小林信吾さんに編曲をしてもらいました。

このように「どんなの歌いたい?」「なーるほど、それなら、この人に頼んでみよう」と、今後の活動や展開も含めて考えながら、信頼できる作家として、作曲:吉田みさお 編曲:塩入俊哉と新しい血も投入しながら、レコーディングを進めていきました。

作詞の佐藤純子さんはすでに「Life is butiful」を書き上げていました。彼女の柔らかさ、優しさ、森川美穂の歌とは、理屈ではなくスツと肌が合います。そこで、吉田みさお作品に、もう一曲お願いと「Salon de l'amour」が仕上がることになります。

「Domino」大好きなら、セルフカバーしてみよう。でも、あれだけ印象が確定しているものをそのままやっても、つまらないから思い切ったアレンジをしてみよう。…と、塩入俊哉さんは、ものすごいコードでドミノを編曲…いや、変曲しました。

このアレンジには、後日、信吾さんも「ぶっ飛んだ」と感想を述べていました。

そして、このアルバムのタイトル曲として、感謝を込めて「Life is beautiful」をピアノだけで歌おう…と、レコーディングを進め、無事にリリースをすることができました。

「Life is Beautiful」 Music Video

<https://youtu.be/qttpowJp9zzY>

2016年9月8日 Sound Inn B-Studio

Vocal 森川美穂 Piano 塩入俊哉



ピアノブースの扉を開け放ったままで、スタジオライブ録音。
ピアノのマイクには歌が、歌のマイクにはピアノの音がまわりこみます。
音楽の原点として時空を共有し、音も心も共鳴する録音となりました。

Director 西嶋貴丸 Engineer 山下有次 Movie Director 翁長裕

『森川美穂 アルバム近代史』

続きは、ファンクラブ会員サイトにて順次公開!

- 第1回 序章～『Life is beautiful』
- 第2回 Best Collection『Be Free』
- 第3回 female
- 第4回 another Face
- 第5回 『VERY BEST SONGS 35』
- 第6回 『I・N・G』
- 第7回 未来編(※森川組VIP応援団会員限定公開)

森川美穂ファンクラブ 森川組 会員募集中!

ひとり喋りコンテンツ『Miho Morikawa Radio Station』や会員イベント、会報、バースデーカードなどの特典をご用意しております。詳しくは、公式ウェブサイトをご覧ください。
<https://morikawamiho.com/fan-club/>

